

## 【平成25年 第2回（6月）定例会 質問と答弁内容（要約）】

### 1. 災害対策について

行政として災害に対する備えをどこまでやればいいのか、というジレンマもあるかと思います。言えることは、想定されることは少しでも対策して、不安を和らげることではないかと思います。災害時に確保すべきはものとして重要なものは、「電源と情報」と言われています。

#### （1）通信情報の確保について

##### ① 衛星ブロードバンドの設置について

災害時、携帯電話は使えないというのは、先般の東日本大震災で実体験したと思います。ただSNSなどインターネットは有効に使えた例はありますが、所詮は有線の地上回線を使用したものです。地震や火災などで、地上回線が遮断されれば、個人はもとより災害対策本部での情報収集が不能となれば致命的です。そこで、地上回線を使用しない衛星ブロードバンドを利用したインターネットの活用はいかがでしょうか。肝心の情報入手の手段として、二重三重と備えていく必要があると思いますが、市としてどのように考えますかお尋ねします。

**答弁：**災害対策本部で災害状況の現地の情報収集する手段としての主な通信方法は、携帯電話や移動系の防災行政無線の地上設備を利用しております。衛星ブロードバンドはメリットが考えられますので、今後、維持管理費などを含め調査研究してまいります。

##### ② アマチュア無線の活用について

アマチュア無線は災害に強いと、見直され始めたのはあの阪神淡路大震災の時からだと思います。東日本大震災の時は、朝霞市でもアマチュア無線が有効に活用されたと聞いています。アマチュア無線の利点として、ラジオのように輻輳しないこと。通信料金は無料で機材が小さく、電池でも稼働できることなど。そして先ほどの衛星インターネットとは違いリアルタイムの情報を送ることができること。難点としては、免許が必要なことでしょうか。アマチュア無線はあくまでも個人局ですが、市としてどのようにとらえているのでしょうか、そして、災害をキーワードにしてアマチュア無線をPRすることはできないでしょうかお尋ねします。災害時の情報を、どう集めどう伝えるかが、市民の人命を助ける上での重要なファクターになるものと思います。

**答弁：**情報収集のため、平成20年6月30日に朝霞アマチュア無線クラブと「災害時情報伝達協定」を締結しています。今後もアマチュア無線の有効性を広報して参ります。

## 【平成25年 第2回（6月）定例会 質問と答弁内容（要約）】

### （2）避難所の整備について

#### ①備蓄品の増量について

最近では東日本大震災で帰宅困難者が、なんとか歩いて自宅まで帰れたことが負の遺産とも言われています。

今は災害の時は会社や外出先から「帰らない」「帰さない」というのが、課題は多くありますが、一般化されてきていると言われ、二次災害を防ぐことにもつながると思います。

帰宅困難者の受け入れは重要になると思います。

現在の備蓄食料や毛布などが、被害想定調査での基本目標値の量で充分なのでしょうか。今朝霞市の備蓄食料については、18000人分の3回分と聞いています。

これらを増量する必要があると思いますが、いかがでしょうかお尋ねします。

**答弁：埼玉県を含む九都市首脳会議が、徒歩帰宅者への支援をするため、災害時帰宅支援者ステーションとして、コンビニやファミレス等と協定を行っています。**

**備蓄品の増量については、このような状況を踏まえ、今後、調査研究してまいりたい。**

#### ②スペースの確保について

地域をまわるなかで、知的障がいのある、お子さんを持つ親御さんから「私たちは避難所へは行けないですね」と言われたことが私の中に、ずーと残っています。

今回の質問は、その方たちの安心を担保する意味でも、避難所へ障がい者の方のスペースを確保して欲しいというものです。

先日民生常任委員会で、福島県いわき市に視察へ行ってきました。

そこで大震災の時、避難所で障がい者への対応がどうであったか、生の声をお聞きしてきました。避難所で障がい者の方のために、専用の場所を確保できたところは、保健室や体育館の倉庫など用意できたところもあったがすべてではないと、まわりから苦情があり居られなくなり、乗ってきた車の中で過ごした方も多くいたということでした。あの時はまだ寒く辛かったと思います。

多動性障がいやパニック障害がい、精神障がい等の方たちはなかなか居られません。

緊急時には、臨機応変に対応することはわかります、ならば、最初から専用スペースを設置できないでしょうか、例えば、他の教室など使用することはできないでしょう、お尋ねします。

**答弁：障害者等、災害弱者のスペースの確保については、避難所に備蓄している仕切り板等で、その状況に応じて設置します。**

**また学校教育の早期再開を目指すことなど、さまざまな状況があり、専用の場所を確保するためには、臨機応変に対応していきませんが、例えば教室を活用した専用スペースを確保するなど、できる限り配慮をするよう努めていきます。**

## 【平成25年 第2回（6月）定例会 質問と答弁内容（要約）】

### 2. 自殺防止、うつ病対策について

#### （1）「こころの体温計」の導入について

全国で自殺者の数が3万人となり、朝霞市内の自殺者の数も毎年30人前後の方が命を落とされ、市内の死亡原因でも自殺が5番目となっています。

自殺者の50%はうつ病など精神疾患の方が占めているようです。

うつ病を軽減することで、自殺防止につながるひとつになると思います。

うつ病を発症していることから早期発見、早期治療につなげるための手段として、パソコンや携帯電話から気軽にメンタルヘルスセルフチェックができる「こころの体温計」というものがあります。これをやることによって今の自分の状態が目で見えてわかるということと、わざわざ相談窓口に行かなくてよく、市のホームページからアクセスして24時間いつでもできるということです。

この「こころの体温計」を朝霞市でも導入してはいかがでしょうか、お尋ねします。

**※答弁：（市長より）本市の自殺対策のひとつとして「こころの体温計」の導入を、年内に実証させていただきます。**

### 3. 健康増進について

#### （1）健康まつりの改善について

健康でいたいと願うのは、誰でもみなさんそう思っていると思います。

市においても、自身の健康の重要性に対する意識を、高めてもらいたいとの目的で、「健康まつり」を開催していることと思います。

ただ、参加者が目標1300人に対し約半分と聞いています。

健康には誰もが興味があるはずなのに、参加者が少ない。

私が思うに、PRや内容がもしかすると固いのではないのでしょうか。

少し趣向を変えて、歌やトークショーなどを取り入れるとか。何かおもしろそうでふらっと寄ったら帰るときには健康を意識するようになったというように、もっと入口を低く広くしてはいかがでしょうか、お尋ねします。

**答弁：保健センターを会場に規模を拡大することは、立地的に難しい点があること、また今年の健康カレンダーで既に周知済みであることから、今年は改善に努めたい。**

**将来的には、わくわくどーむまつりとの共催の可能性も検討して参りたい。**

## 【平成25年 第2回（6月）定例会 質問と答弁内容（要約）】

### （2） 特定健診の環境整備と周知について

特定健康診査は、国民医療費の増大に適切に対処する観点から医療保険者への実施が義務付けられました。

医療費の割合を占める、脳血管疾患や糖尿病のいわゆる生活習慣病は年々増加しており、死亡原因でも1位のがんに次ぐ、生活習慣病が約6割を占める現状があります。

受診率が40%前後と低いと聞いています。それは対象となる方への周知が足りないのでしょうか。またフェイスブックを活用してのPRなどいかがでしょうか。

第2期朝霞市特定健康検査実施計画市も出されました。

周知について市としてどのように取り組んでいるのかをお尋ねします。

**答弁：過去の受診実績から40歳から50歳代の特に男性の受診が少ないことから受診率の向上を課題としています。**

**フェイスブックの活用は有効なツールであると思われます。今後若い世代を含め、多くの世代の方々への新たなPR方法として活用してまいります。**

**また、イベントのPRについて、朝霞地区4市共同で受診率向上キャンペーンを行う予定です。**

## 4. 地域コミュニティについて

### （1） 民間のコミュニティスペースの促進について

地域、地域で市民のみなさん方同士で、様々な活動をされています。

しかし、混み合って場所を確保できないことがあったり、施設が近くになかったりという問題もできます。

手軽に使えるコミュニティスペースがもっとあれば、そして身近にあればなお嬉しいです。

そこで、民間企業の施設、例えばスーパーや工場などの一角をコミュニティスペースとして提供していただけるよう、市として働きかけることはできないでしょうか。企業側も地域コミュニティの一躍を担い、社会貢献にもなると思いますし、その橋渡しを市がやるというのはどうでしょうか。もっとも、行政としてなんの関係もないと言われればそれまでですが、

「市民のため」との思いがあれば、民間に協力をお願いしていく姿勢があってもいいと思うのですが、どのように考えますかお尋ねします。

**答弁：民間施設のスペースを確保し、利用していただくには、事業者のご理解やご協力、交流場所の選定や管理の問題など課題が多いものと思われますので、今後、調査・研究して参ります。**